



地域ブランド「豊浦いちご」

道経連会報 No.254 CONTENTS

巻頭言	1
特集1 北海道新幹線 開業2周年を迎えて	2
道経連講演会	12
特集2 道内における 生物多様性保全の取組	22
道経連カレンダー	24
苫小牧地域会員懇談会	25
常任理事会レポート	26
経済施策説明	27
委員会等の動き	32
働き方改革を推進する企業	40
会員企業紹介	43
会員の異動	48
事務局人事	48
新会員企業紹介	49
グループ活動報告	54
北海道の経済動向	64
人事・労務相談日	73
会報誌読者様へのお願い	74
わがまち紹介(シリーズ24)	75



北海道経済連合会 副会長

田中 義克

トヨタ自動車北海道(株)
顧問

北海道の「更なる発展」 を目指して

私は2007年(No. 190)の会報に「いよいよ北海道の時代来たる」というタイトルで巻頭言を書いています。

当時は愛知県のトヨタ自動車(株)からトヨタ自動車北海道(株)に来て2年目で、最初の印象・思いを表しています。内容は、北海道の良い点として人財確保が愛知県(本州)と比べ割合容易であり、モノづくりに適したまじめな人達が多いこと。また物流面は想像していたより利便性がよく、冬の雪も比較的少ないこと。特に水やエネルギー、自然環境に恵まれており、やや積極性の弱さや技術レベル向上など課題はあるものの、北海道にはフォローの風が吹いていて、「いよいよ北海道の時代来たる」という思いを語っていました。

10年の月日が流れ、どうなったのでしょうか?私は自らの会社に対して変化への対応を進めてきました。そして地域、北海道に対しては「モノづくり」の重要性をいろいろな場面、立

場で訴えてきました。

当社においては、まず製品の主力がAT（オートマチック・トランスミッション）からCVT（無段変速機）、HV（ハイブリッドトランスアクスル）に変わり、当時生産していたアルミホイールは生産を中止しました。製品技術の変化に対応するため、情報収集・トヨタ本社への働きかけなどを行うと共に、内部的にも製品競争力をダントツに向上させるためシンプル・スリム・コンパクトな工程造り、そのための生産技術開発や現場の知恵を活かした「からくり機構」、品質向上、そして最も重要である人材（財）育成などに注力し経営の安定化を図ってきました。



CVT（無段変速機）



HV（ハイブリッドトランスアクスル）

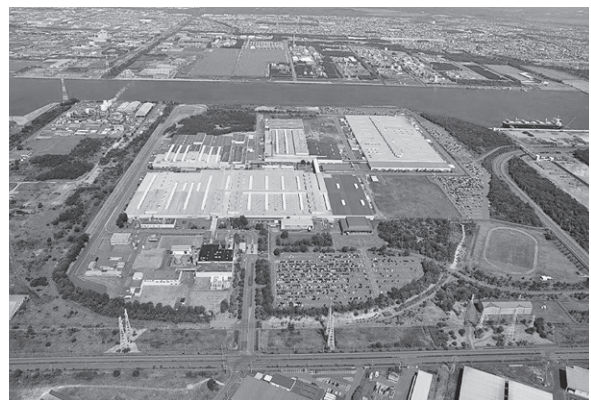
我々を取り巻く地域また北海道の「モノづくり」の状況はどうでしょうか？この10年間で北海道のGDPは18.9兆円（2007年）から18.5兆円（2014年）とほぼ横ばいで、人口は560万人から544万人と減少しています。

そんな中で製造業全体では1.7兆円（2007年）から、1.6兆円（2014年）と減少。しかしながら同時期の製造品出荷額の変化をみると5.7兆円から6.7兆円と大きく増えています。また自動車関連企業を見ますと、この10年間で道央地区にデンソー、アイシン、CVTECなど10社が進出し、その雇用だけでも2千名近くになっています。

最近では北海道の将来に向けて、「食」と「観光」に次ぐ3本目の柱として、「モノづくり」をもっと強くしようという言葉も聞かれるようになってきました。

しかし、まだまだ大きな力、流れにはなっていません。私は「モノづくり」は「モノ」に付加価値を与えることで、1次産品、原材料供給基地化している北海道はもっと価値を高め、雇用の場を作れると信じています。また観光産業は、本来1次、2次産業やその地域の歴史、文化、自然などを全て融合した総合産業であると思っています。そうでなければ、リピーターは来ないでしょう。ここにも「モノづくり」の知恵、ノウハウが活かされると強く感じています。

10年前に書いた「いよいよ北海道の時代来たる」を今こそ実現させて、他の地域にない、大きな特長を持ったこの北海道を、バランスの取れた従来の日本にないビジネスモデルでの活性化・発展をさせていこうではありませんか。私はこれからも引き続き「北海道でのモノづくり」を支援していきたいと思っています。



トヨタ自動車北海道(株)全景